

皮膚科 スタッフ紹介

専門分野 乾癬、アトピー性皮膚炎

あさひ な あきひ こ
朝比奈 昭彦

出身大学 東京大学

卒年 昭和62年

出身地 神奈川県

趣味 鉄道旅行

好きな言葉 誠実



患者さんへの一言

皮膚の症状は目に見えます。そのトラブルを理解して解決すべく、鋭意、診療を行います。

専門分野 乾癬

もも せ
百瀬 まみ

出身大学 東京慈恵会医科大学

卒年 平成22年

出身地 山梨県

趣味 テニス、野球観戦

好きな言葉 善因善果



患者さんへの一言

皮ふにまつわることは何でも気軽にご相談ください。

専門分野 アトピー性皮膚炎

いしうじ ようぞう
石氏 陽三

出身大学 東京慈恵会医科大学

出身地 東京

趣味 ランニング、髪型の変更、サーフィン、音楽鑑賞、ジーンズ

好きな言葉 『とにかく手を抜いてない姿を見せる』



患者さんへの一言

現在、注射薬など様々なアトピー性皮膚炎や痒みへの治療薬がございます。ぜひ、外来にお越し頂き、ご相談させて頂けますと幸いです。



すこやか

No. 74
2024

インフォメーション

慈恵大学病院だより



Information



患者さんが一瞬でも病院にいることを忘れて、ほっとできたという思いから始まった慈恵ゴスペルクリスマスコンサート。医師、看護師、職員、学生等が有志で集まり、毎年、クリスマスの時期にコンサートを開催しています。今年で21年目を迎えることになり、院内での開催はできませんでしたが、港区立郷土歴史館より合唱動画を配信します。次のURL、QRコードからご視聴いただけます。

<http://jikeigos.sakura.ne.jp/>



特集 皮膚科の診療のご紹介

スタッフ紹介
皮膚科

Information
慈恵ゴスペルクリスマスコンサート

東京慈恵会医科大学附属病院

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-3433-1111 (代)
URL <https://www.hosp.jikei.ac.jp>



東京慈恵会医科大学附属病院

冬に気をつけたい肌のトラブル～冬は乾燥しやすい季節です～

体の外と中を隔てる臓器である皮膚には、外界の刺激から体内を守るバリア機能が備わっています。皮膚の一番外側である角層は、角化して薄くなった表皮細胞で出来ており、セラミドはじめとした脂質が表皮細胞同士や層の間を満たすことでなめらかで緻密な「バリア」を形成しています。

気候が乾燥すると、この脂質が減少し、肌がかさかさとしてきます。これが「皮脂欠乏症」です。

皮脂欠乏症では角層の緻密なバリアとしての構造が破綻し、外からの刺激が容易に侵入できるようになります。刺激を受けた皮膚では、かゆみ物質やかゆみの神経の成長を促す物質が作られるため、しばしばかゆみを伴います。

さらに、刺激を受けた皮膚で炎症反応が生じると、赤みと強いかゆみを伴う「皮脂欠乏性湿疹」の状態になります。皮膚を引っ掻いたり擦ったりすることも炎症の誘因となります。

加齢によって皮膚の脂質は減少する傾向にあることから、皮脂欠乏症・皮脂欠乏性湿疹は年齢と

ともに起こりやすくなります。皮膚が未成熟な乳幼児、皮膚のバリア機能が低下する傾向のあるアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の患者さんでも乾燥により湿疹がでやすくなることがあります。

皮脂欠乏症では、保湿によるスキンケアをしっかりと行うことがとても重要です。ヘパリン類似物質、尿素、白色ワセリンなどは皮膚科で処方される代表的な保湿剤です。

保湿剤には、軟膏、クリーム、ローション、乳液、フォーム(泡)などいくつかのタイプがあり、使用感も異なります。基本的に保湿剤はご自身に合った使用感のものを選んでいただくのが良いですが、たっぷりと塗ること、乾燥してきたら塗り足すことがコツです。下記の写真のように、軟膏やクリームであれば人差し指の第一関節まで出した量、ローションや乳液では1円玉くらいの量を手のひら2枚分に塗るというのを目安に、十分な量を塗ってください。



軟膏の塗布量の目安
(人差し指の第一関節まで)

手のひらで広げる



手のひら2枚分を目安



皮膚科病理カンファレンスの様子

皮膚科専門外来のご紹介

皮膚科では、一般外来の他に、特定の病気の患者さんの診療にあたる専門外来を設置しています。そのいくつかについて紹介させていただきます。

◆乾癬外来

乾癬は、皮膚の炎症と増殖を特徴とする「炎症性角化症」の代表とされる病気です。

乾癬の皮膚症状に対しては、副腎皮質ステロイドやビタミンD3などの塗り薬や、紫外線療法が用いられます。当院皮膚科では、全身型および局所型の紫外線療法を行っています。

また、近年の研究により、インターロイキン17や23など体内で作られるいくつかの炎症シグナル物質が乾癬の発症に深く関わっていることが明らかになり、それらの炎症シグナルをピンポイントにおさえる生物学的製剤などの「分子標的薬」が、高い治療効果を発揮しながら副作用も比較的に少ない新しい全身治療として、ここ10年ほどで

急速に普及しつつあります。

当院皮膚科では本邦でも初期より乾癬の新規治療の積極的な導入を行っており、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できるようつとめております。

◆アトピー外来

読者の方々の中には「アトピー性皮膚炎はアレルギーの病気である」というイメージをお持ちの方も多いかと思われます。

しかし実際には、アトピー性皮膚炎においてはアレルギーだけでなく、皮膚のバリア機能の低下、かゆみなどの要因が複雑に絡み合っており、それらを総合的に治療していく必要があります。

アトピー性皮膚炎は近年治療の進歩が目覚ましい分野でもあり、皮膚科アトピー外来では専門の医師のもと、患者さんの症状やお悩みに合わせた治療を行っています。



皮膚科スタッフ一同